

平成 30 年度 全学共通科目に関する調査（学生対象）

- 調査概要** 全学共通科目のうち、「社会人基礎力入門」、「初年次ゼミⅠ」、「初年次ゼミ」、「自己と社会・地域論」、「初年次ゼミⅡ」の 5 科目について、学生を対象とした授業前後のアンケート調査を実施した。調査では、全 15 回の授業内容について 4 段階の自己評価で達成度を測るとともに、講義前後の変化について 2 択で測り、教育前後の違いについても明らかにした。
- 調査時期** 前期調査：2018 年 7 月（15 回目授業時）
後期調査：2019 年 1 月（15 回目授業時）
- 調査対象** 大学 1 年生：「社会人基礎力入門」「初年次ゼミⅠ」「自己と社会・地域論」「初年次ゼミⅡ」
短期大学部 1 年生：「社会人基礎力入門」「初年次ゼミ」「自己と社会・地域論」
- 調査内容** 科目ごとにシラバスの到達目標に基づく 15 項目の設問を設定し、「できていない」「あまりできていない」、「できている」、「とてもよくできている」の 4 段階で回答を求めた。また教育前後の変化を把握するため、前述の自己評価が「講義前から変わらない」、「講義前から変わった」のどちらかで選択回答を求めた。

「社会人基礎力入門」

- ①基礎学習力や社会人マナーについて（11 項目）
- ②情報リテラシーについて（4 項目）

「初年次ゼミⅠ」

- ①大学生活の心構えについて（4 項目）
- ②ノートテイキングやリーディングについて（3 項目）
- ③情報収集について（2 項目）
- ④レポート小論文などの文章技法について（6 項目）

「初年次ゼミ」

- ①大学生活の心構えについて（4 項目）
- ②ノートテイキングやリーディングについて（2 項目）
- ③情報収集について（2 項目）
- ④レポート小論文などの文章技法について（3 項目）
- ⑤プレゼンテーションの基礎技法について（4 項目）

「自己と社会・地域論」

- ①あなた自身について（7 項目）
- ②地域社会について（8 項目）

「初年次ゼミⅡ」

- ①プレゼンテーションの基礎技法について（8 項目）
- ②ディベートについて（3 項目）
- ③ディスカッションについて（4 項目）

調査結果 各科目のアンケート回答者数は下記の通りであった。

科目名	男	女	不明	合計
社会人基礎力入門	217	493	9	719
初年次ゼミ I	167	361	3	531
初年次ゼミ	26	114	1	141
自己と社会・地域論	203	463	8	674
初年次ゼミ II	166	332	5	503

結果の概要

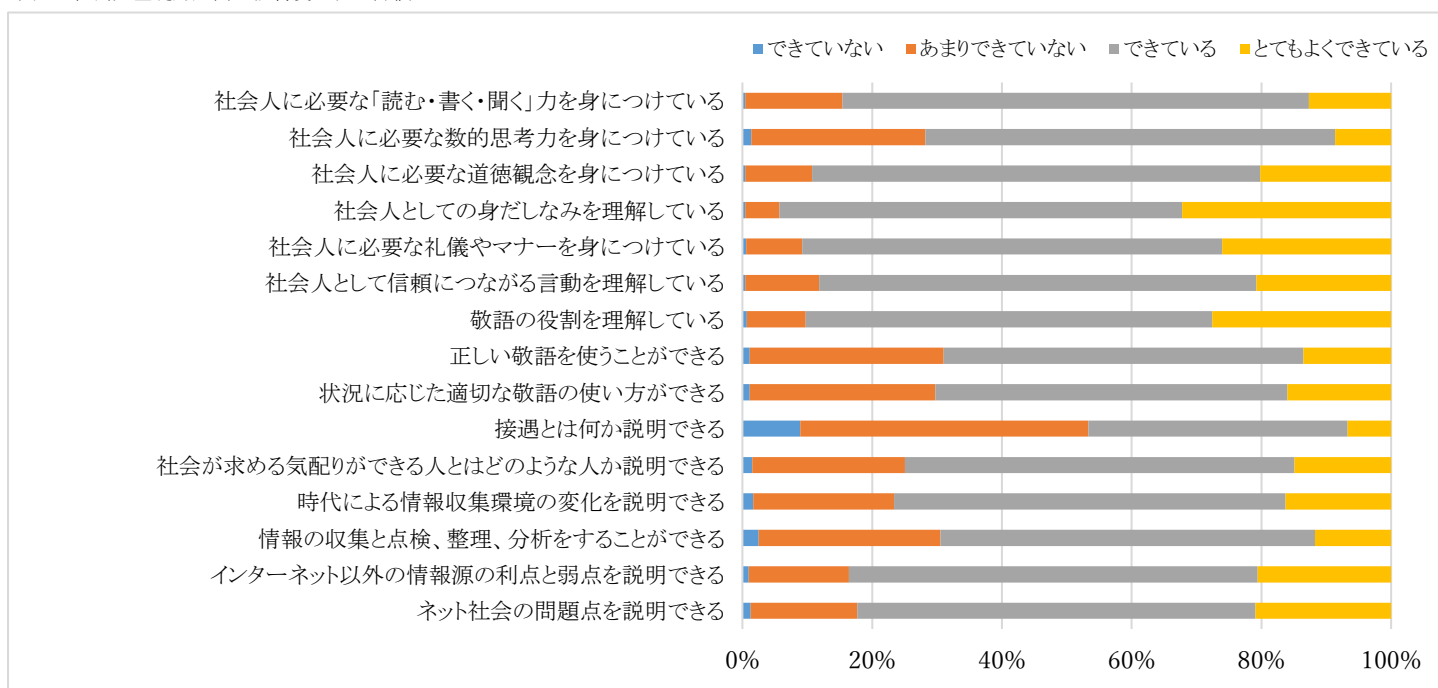
「社会人基礎力入門」

前半の社会人マナーについては概ね肯定的回答（「できている」「よくできている」）が得られたが、敬語の使い方に関する項目では否定的回答（「できていない」「あまりできていない」）が多い傾向があった。また、〈接遇とはなにか説明できる〉では否定的回答が 53% を占めていた。社会人マナーの中でも、特に「接遇」については初めて耳にする学生が多いと考えられ、スキルや心構えなど基礎的な内容からの学修が必要と考えられる。

表1. 社会人基礎力入門の自己評価

	修得度の自己評価								授業前後の変化			
	できていない		あまりできていない		できている		とてもよくできている		変わらない		変わった	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
社会人に必要な「読む・書く・聞く」力を身につけている	3	0%	108	15%	517	72%	91	13%	298	42%	412	58%
社会人に必要な数的思考力を身につけている	10	1%	193	27%	454	63%	62	9%	368	52%	341	48%
社会人に必要な道徳観念を身につけている	3	0%	74	10%	496	69%	145	20%	343	48%	367	52%
社会人としての身だしなみを理解している	3	0%	38	5%	445	62%	231	32%	309	44%	400	56%
社会人に必要な礼儀やマナーを身につけている	4	1%	62	9%	465	65%	187	26%	243	34%	467	66%
社会人として信頼につながる言動を理解している	3	0%	82	11%	484	67%	149	21%	272	38%	437	62%
敬語の役割を理解している	5	1%	65	9%	450	63%	198	28%	252	36%	457	64%
正しい敬語を使うことができる	8	1%	215	30%	399	55%	97	13%	291	41%	419	59%
状況に応じた適切な敬語の使い方ができる	8	1%	206	29%	390	54%	115	16%	301	43%	407	57%
接遇とは何か説明できる	64	9%	319	44%	287	40%	48	7%	382	54%	328	46%
社会が求める気配りができる人とはどのような人か説明できる	11	2%	169	24%	431	60%	107	15%	285	40%	422	60%
時代による情報収集環境の変化を説明できる	12	2%	156	22%	433	60%	117	16%	284	40%	426	60%
情報の収集と点検、整理、分析をすることができる	18	3%	201	28%	414	58%	84	12%	323	46%	385	54%
インターネット以外の情報源の利点と弱点を説明できる	7	1%	111	15%	453	63%	148	21%	252	36%	457	64%
ネット社会の問題点を説明できる	9	1%	118	16%	440	61%	150	21%	238	34%	471	66%

図 1. 社会人基礎力入門の修得度の自己評価



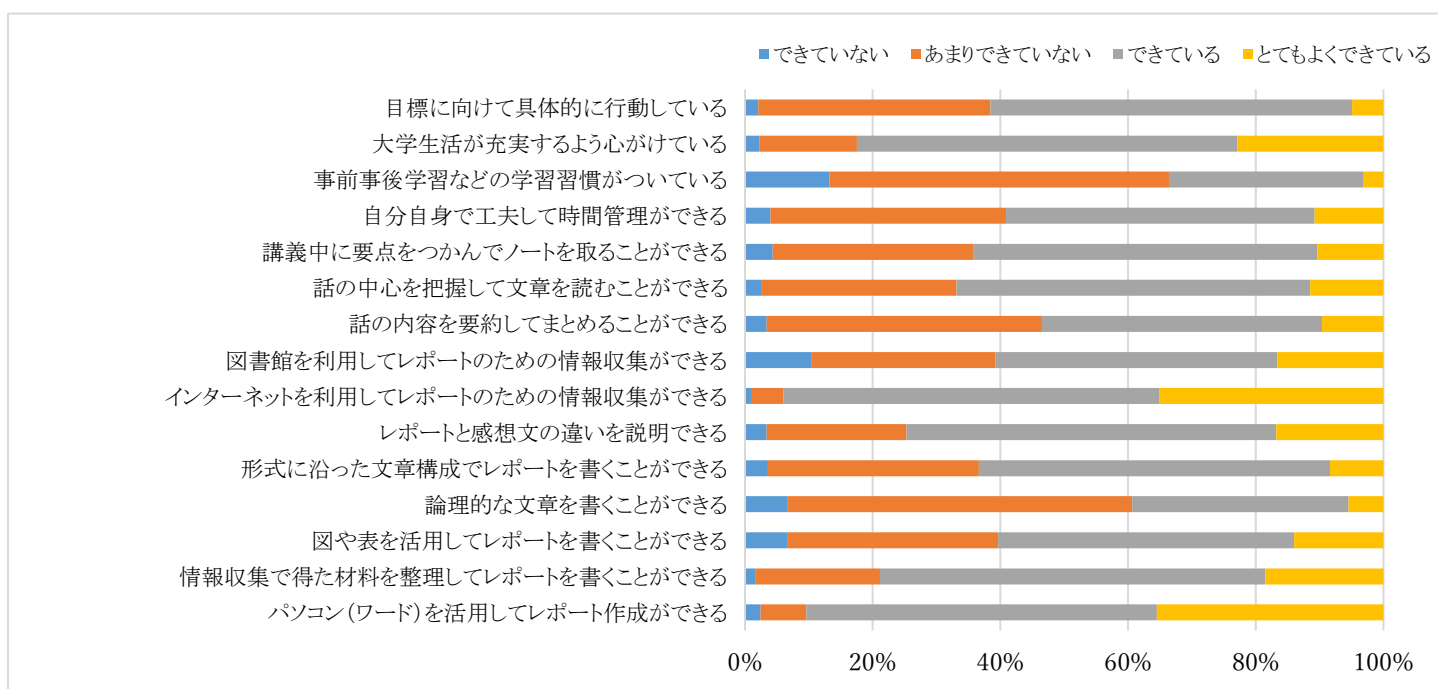
「初年次ゼミ I」

15 項目のうち、〈インターネットを利用してレポートのための情報収集ができる〉、〈パソコンを活用してレポート作成ができる〉については肯定的回答が 9 割を占めており、修得の実感を得ていたと考えられた。一方、〈事前事後学習などの学習習慣がついている〉、〈論理的な文章を書くことができる〉については否定的な回答が 6 割を占めていた。上記の 2 項目については「講義前から変わらない」と回答した学生の割合も高かった。いずれも大学入学前からの個人の資質能力の影響が大きい項目であるが、大学生として欠かせないスキル・心構えであり、学生が修得の実感を得られるような授業内容への改善が求められる。

表2. 初年次ゼミIの自己評価

	修得度の自己評価								授業前後の変化			
	できていない		あまりできていない		できている		とてもよくできている		変わらない		変わった	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
目標に向けて具体的に行動している	11	2%	193	36%	301	57%	26	5%	309	59%	214	41%
大学生活が充実するよう心がけている	12	2%	81	15%	316	60%	121	23%	311	59%	213	41%
事前事後学習などの学習習慣がついている	70	13%	282	53%	161	30%	17	3%	387	74%	136	26%
自分自身で工夫して時間管理ができる	21	4%	195	37%	255	48%	57	11%	361	69%	161	31%
講義中に要点をつかんでノートを取ることができる	23	4%	167	32%	285	54%	55	10%	285	54%	238	46%
話の中心を把握して文章を読むことができる	14	3%	162	31%	294	55%	61	11%	304	58%	219	42%
話の内容を要約してまとめることができる	18	3%	229	43%	233	44%	51	10%	304	58%	220	42%
図書館を利用してレポートのための情報収集ができる	55	10%	153	29%	235	44%	88	17%	238	45%	286	55%
インターネットを利用してレポートのための情報収集ができる	5	1%	27	5%	311	59%	186	35%	201	38%	322	62%
レポートと感想文の違いを説明できる	18	3%	116	22%	307	58%	89	17%	164	31%	358	69%
形式に沿った文章構成でレポートを書くことができる	19	4%	174	33%	290	55%	44	8%	202	39%	316	61%
論理的な文章を書くことができる	35	7%	287	54%	180	34%	29	5%	316	61%	205	39%
図や表を活用してレポートを書くことができる	35	7%	175	33%	246	46%	74	14%	239	46%	283	54%
情報収集で得た材料を整理してレポートを書くことができる	9	2%	103	19%	320	60%	98	18%	183	35%	338	65%
パソコン(ワード)を活用してレポート作成ができる	13	2%	38	7%	291	55%	188	35%	156	30%	367	70%

図 2. 初年次ゼミ I の修得度の自己評価



「初年次ゼミ」

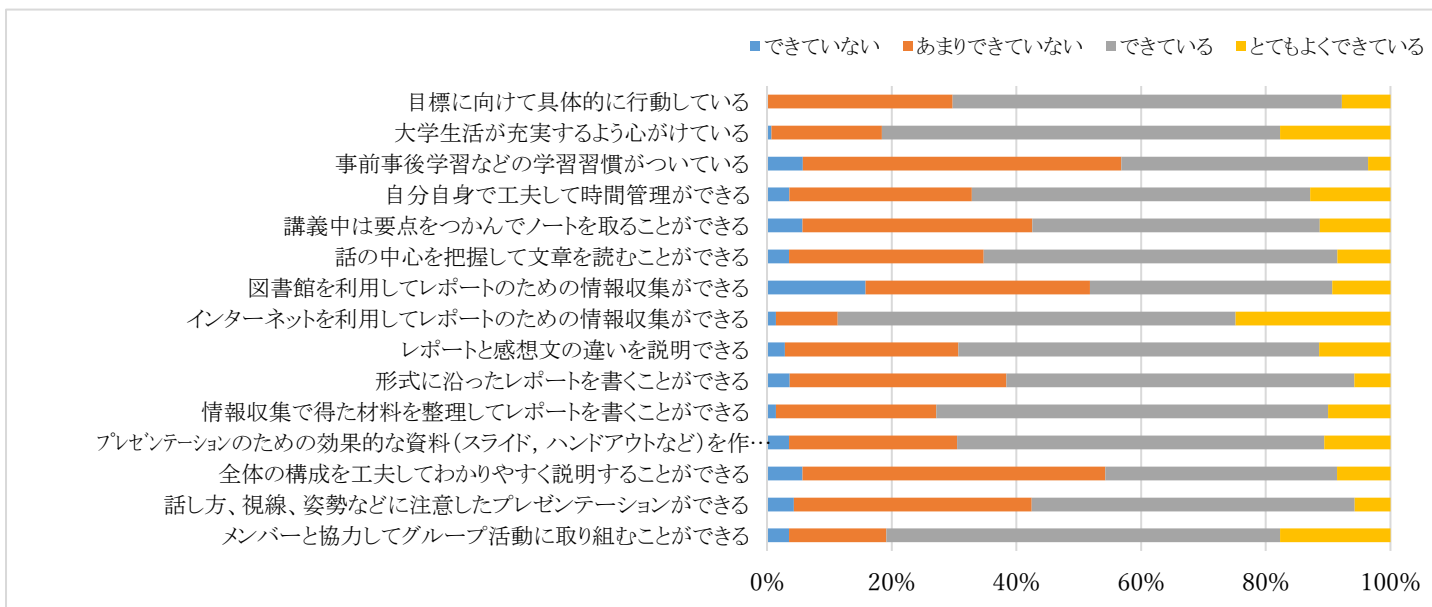
15項目のうち、〈インターネットを利用してレポートのための情報収集ができる〉については「初年次ゼミⅠ」と同様に肯定的な回答が大部分（89%）を占めていた。一方で、〈図書館を利用してレポートのための情報収集ができる〉では否定的な回答が半数を占めていた。レポート作成の情報収集においては様々な情報源をバランスよく活用できるように、授業内容を改善する必要がある。

〈メンバーと協力してグループ活動に取り組むことができる〉も肯定的回答が81%となっており、アクティブラーニングなどを通じての学習が効果的に行われていると考えられた。

表3. 初年次ゼミの自己評価

	修得度の自己評価								授業前後の変化			
	できていない		あまりできていない		できている		とてもよくできている		変わらない		変わった	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
目標に向けて具体的に行動している	0	0%	42	30%	88	62%	11	8%	75	53%	66	47%
大学生活が充実するよう心がけている	1	1%	25	18%	90	64%	25	18%	71	50%	70	50%
事前事後学習などの学習習慣がついている	8	6%	71	51%	55	40%	5	4%	84	60%	56	40%
自分自身で工夫して時間管理ができる	5	4%	41	29%	76	54%	18	13%	81	58%	59	42%
講義中は要点をつかんでノートを取ることができる	8	6%	52	37%	65	46%	16	11%	77	55%	64	45%
話の中心を把握して文章を読むことができる	5	4%	44	31%	80	57%	12	9%	74	52%	67	48%
図書館を利用してレポートのための情報収集ができる	22	16%	50	36%	54	39%	13	9%	82	59%	58	41%
インターネットを利用してレポートのための情報収集ができる	2	1%	14	10%	90	64%	35	25%	52	37%	89	63%
レポートと感想文の違いを説明できる	4	3%	39	28%	81	58%	16	11%	51	36%	89	64%
形式に沿ったレポートを書くことができる	5	4%	48	35%	77	56%	8	6%	60	43%	81	57%
情報収集で得た材料を整理してレポートを書くことができる	2	1%	36	26%	88	63%	14	10%	53	38%	88	62%
プレゼンテーションのための効果的な資料(スライド、ハンドアウトなど)を作成できる	5	4%	38	27%	83	59%	15	11%	61	44%	79	56%
全体の構成を工夫してわかりやすく説明することができる	8	6%	68	49%	52	37%	12	9%	79	56%	61	44%
話し方、視線、姿勢などに注意したプレゼンテーションができる	6	4%	53	38%	72	52%	8	6%	63	45%	77	55%
メンバーと協力してグループ活動に取り組むことができる	5	4%	22	16%	89	63%	25	18%	58	41%	83	59%

図3. 初年次ゼミの修得度の自己評価



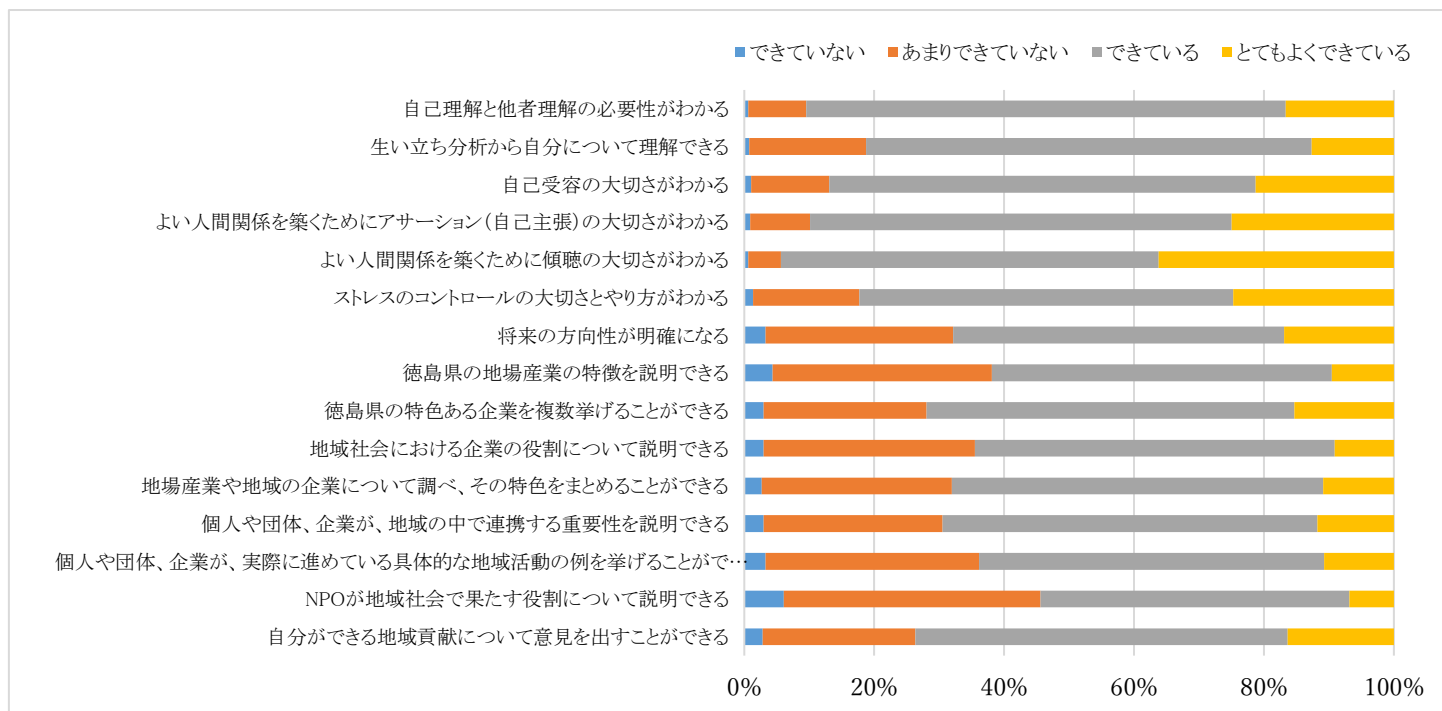
「自己と社会・地域論」

前半の「自己」に関する項目では肯定的回答の割合が高く、内容をよく修得していたと考えられた。一方、後半の「地域社会」に関する項目では、「できていない」、「あまりできていない」の割合が前半部分に比べて高く、26～46%を占めていた。企業やNPOなどについて基礎的な知識を得ることは就業力を身につけるためにも重要であるため、さらに効果的な学修内容となるように検討する必要がある。

表4. 自己と社会・地域論の自己評価

	修得度の自己評価								授業前後の変化			
	できていない		あまりできていない		できている		とてもよくできている		変わらない		変わった	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
自己理解と他者理解の必要性がわかる	4	1%	60	9%	497	74%	112	17%	270	41%	395	59%
生い立ち分析から自分について理解できる	5	1%	121	18%	461	69%	85	13%	291	44%	374	56%
自己受容の大切さがわかる	7	1%	81	12%	441	66%	143	21%	266	40%	397	60%
よい人間関係を築くためにアサーション(自己主張)の大切さがわかる	6	1%	62	9%	437	65%	168	25%	234	35%	429	65%
よい人間関係を築くために傾聴の大切さがわかる	4	1%	34	5%	390	58%	243	36%	276	42%	385	58%
ストレスのコントロールの大切さとやり方がわかる	9	1%	110	16%	386	58%	166	25%	282	43%	379	57%
将来の方向性が明確になる	22	3%	193	29%	341	51%	113	17%	347	53%	311	47%
徳島県の地場産業の特徴を説明できる	29	4%	226	34%	350	52%	64	10%	263	40%	396	60%
徳島県の特徴ある企業を複数挙げることができる	20	3%	169	25%	381	57%	103	15%	242	36%	422	64%
地域社会における企業の役割について説明できる	20	3%	218	33%	371	55%	61	9%	256	39%	406	61%
地場産業や地域の企業について調べ、その特色をまとめることができる	18	3%	196	29%	383	57%	73	11%	258	39%	405	61%
個人や団体、企業が、地域の中で連携する重要性を説明できる	20	3%	185	28%	388	58%	79	12%	250	38%	413	62%
個人や団体、企業が実際に進めている具体的な地域活動の例を挙げることができる	22	3%	221	33%	357	53%	72	11%	276	42%	385	58%
NPOが地域社会で果たす役割について説明できる	41	6%	266	40%	320	48%	46	7%	330	50%	334	50%
自分ができる地域貢献について意見を出すことができる	19	3%	158	24%	385	57%	110	16%	261	39%	402	61%

図4. 自己と社会・地域論の修得度の自己評価



「初年次ゼミ II」

15 項目のうち、〈人が発表しているときは、協力的に聞くことができる〉は肯定的な回答が全体の 94%を占めていた。この項目については、「講義前から変わらない」が 6 割を占めていたことから、すでに修得している学生が多くいると考えられる。今後は、協力的に聞くだけでなく、積極的に質問したり自分の意見を伝えたりするなど、プレゼンテーションにより関わりが持てるように、教育目標を検討する必要がある。

表5. 初年次ゼミIIの自己評価

	修得度の自己評価								授業前後の変化			
	できていない		あまりできていない		できている		とてもよくできている		変わらない		変わった	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
プレゼンテーションの基本的なスキルを説明できる	11	2%	115	23%	339	68%	36	7%	124	25%	371	75%
プレゼンテーションの準備のための情報収集のスキルを身につけている	6	1%	65	13%	360	72%	71	14%	132	27%	364	73%
プレゼンテーションの構成を考えることができる	4	1%	75	15%	340	68%	80	16%	124	25%	371	75%
パワーポイントを使ってスライドを作成することができる	7	1%	39	8%	317	64%	136	27%	176	35%	320	65%
目的に応じて図や表、画像などを活用し、視覚的にわかりやすいスライドを作成することができる	8	2%	104	21%	299	60%	91	18%	168	34%	328	66%
説得力を持った発表ができるよう意識している	14	3%	147	29%	288	57%	52	10%	209	42%	286	58%
態度、言葉、動作などを意識した発表ができる	11	2%	158	32%	272	54%	60	12%	233	47%	261	53%
人が発表しているときは、協力的に聞くことができる	2	0%	30	6%	258	51%	211	42%	299	61%	193	39%
ディベートの基本的なルールを説明できる	14	3%	127	25%	306	61%	53	11%	152	31%	342	69%
ディベートで自分の役割を果たすことができる	14	3%	139	28%	297	59%	50	10%	179	36%	314	64%
ディベートのテーマについて論理的に考え、意見を組み立てることができる	24	5%	148	30%	285	57%	43	9%	205	41%	290	59%
ディスカッションの基本的なルールを説明できる	8	2%	144	29%	308	61%	42	8%	184	37%	312	63%
ディスカッションで意見を述べるることができる	14	3%	128	25%	291	58%	69	14%	206	42%	288	58%
グループの中で共通理解が得られるように話し合うことができる	10	2%	106	21%	307	61%	79	16%	194	39%	301	61%
グループで話し合い、課題の解決策を考えることができる	10	2%	87	17%	323	64%	82	16%	186	38%	310	63%

図 5. 初年次ゼミ II の修得度の自己評価

